

# ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

## 南北朝時代の郷土 その1

～ 菊池武敏、太田清水の戦に圧勝 ～

### 足利尊氏、九州へ逃れる

足利尊氏は、後醍醐天皇によつて成された建武新政の最大の功労者の一人でした。にもかかわらず、わずか1年そこそこで、新政権から離反してしまいます。その後は後醍醐天皇側と激しくせめぎ合い、一旦は上洛を果たすものの支え切れずに、ついに敗走します。

尊氏・直義兄弟は追手が迫る中、室津（現兵庫県御津町室津）から、九州での再起を賭けて出航します。「旗を巻き、背をぬぎ」（梅松論）とか、「乗殿れたる兵共、物具衣装を脱捨て」（太平記）とあるように、ほうほうの態での逃走でした。

一方九州では、尊氏が九州へ走る一報を受けて動いた、二人の人物がいました。一人は大宰府有智山城を本拠とする少式貞経で、息子の頼尚を下関へ迎えに出しています。もう一人は、肥後国菊池を本拠とする菊池武敏です。後醍醐天皇に近侍して活動していた兄の武重からの連絡で、九州へ下る尊氏を討つべく挙兵の準備を始めます。当の尊氏は、少式頼尚の先

導のもと、芦屋津（現福岡県遠賀郡芦屋町）に上陸して、宗像大宮司館に迎え入れられます。

### 太田清水の戦

菊池武敏は軍勢を調べて阿蘇惟直（阿蘇大宮司）とともに、本拠地の菊池を進発して北上を開始します。一方の少式貞経もこの動きを察知し、早速菊池軍迎撃のため詫磨之親・同貞政などを発向させています。

2月27日にこの両軍がぶつかった場所が、現在の広川町太田の東部一帯です。時に延元元年（1336年）、今から686年前の出来事になります。ちなみに延元（後醍醐天皇側で使った年号）と改元されたのは2月29日。厳密にいうと建武3年2月27日です。

太田清水は太田寒水と記された古文書もあります。地名の語源をたどると、現在の上下太田橋付近の右岸に清水（湧水）が出ていたといい、昔は春日神社（太田村鎮守）のお潮井を

汲んでいたとも聞きますので、湧水があったことに因む地名に、間違いはないと考えます。この地で両軍が激しくぶつかった理由は、大宰府からも菊池からもこの地が、距離的にも地形的にも戦略上の要衝であったことによるのではないのでしょうか。

この戦は菊池軍の圧勝で、敗走する少式軍を激しく追撃し北上を続けます。実はこの時に尊氏方に呼応して、現みやま市田尻を拠点とする田尻種家が参戦。菊池軍の背後を脅かす動きがあった事実も、古文書によって判明しました。

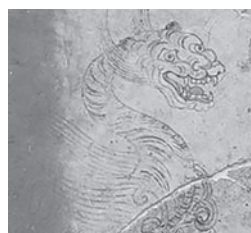


太田清水の古戦場（南から見た上太田橋付近）  
延元元年2月27日、菊池武敏が率いる軍勢と少式貞経が派遣した軍勢がこの一帯で戦った。

### 広川町古墳資料館だより

寅年になりました。考古学の世界ですぐに思い当たる虎は、装飾古墳に描かれた「白虎」です。国内では、福岡県の竹原古墳、奈良県の高松塚古墳・キトラ古墳の3例のみに確認されています。白虎は、中国の神話で西の方位を司り、秋の季節を象徴し、色は白が与えられる神獣です。

飛鳥時代末から奈良時代初期の装飾古墳において、渡来人の文化と共に、朝鮮半島で多く見られる四神図が描かれています。国宝になっているキトラ古墳の壁画の白虎は、細身で首が長く、前脚を前方に突き出して、北側を向いて立ち上がっている姿を表現しています。



▲キトラ古墳の壁画

# 右と左、どちらに立ちますか？

～ 時代とともに変わる慣習 ～

☎教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎0943-32-0093

右と左、  
どちらに並んでいましたか？

中国から伝わってきた  
左優位

並ぶときは  
どうして右優位？

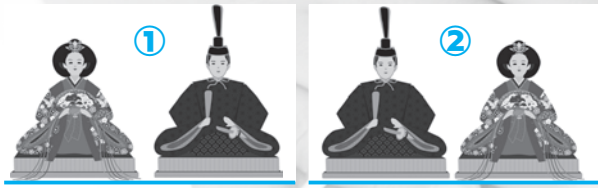
学校で集会があったとき、あなたは左右どちら側に並んでいましたか？ 多くの人が正面に向かって「男性は右」「女性は左」に並んでいたのではないのでしょうか。では、次の問題を考えてみてください。

論語に「天子南面」という言葉があります。かつて中国では、一番偉い人が南（太陽）を向いて中央に立ち、その左側（東側・太陽が昇る方）に左大臣、右側（西側・太陽が沈む方）に右大臣が立っていました。この左優位の考え方が日本に伝わってきました。

では現在、なぜ男女が並ぶときに、この左優位の考え方が右優位に変わったのでしょうか？ 実はかつて、欧米で男性が剣を持ち歩いていたら、右手に剣を持ち、女性は男性のあいている左腕をつかむという習慣がありました。このことから、欧米では右優位の考え方があったようです。

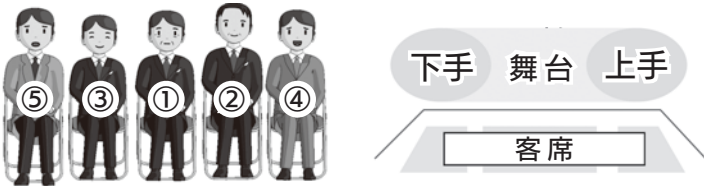
からそんなことは考えていない」という人も多いと思いますが、知らないうちに優位の慣習を引き継いでいたのです。世の中には、多くの慣習があり、優位の考え方も含まれています。「慣習は守らなければいけないもの」ではなく、時代とともに「慣習として残すもの、変わっていくもの、変えていくもの」と変化してきました。「今までやってきたから当然守らなければならない」と慣習を強制することは、人権問題につながることもありません。常に人権を意識しながら考えましょう。

**問題** だいいりびな内裏雛があります。あなたが住む町では①②どちらでしたか？



多くの地域では、②のように並んでいます。しかし大正時代までは、ほとんどが①のように並んでいたようです。

残っています。舞台上は「左側（向かって右側）を上手（座）」「右側（向かって左側）を下手（座）」といい、舞台上に立つときは下手から入ることになります。席に座るときも、㊸①から⑤の順で座ることがあります。



男女が並んで立つという中にも、優位があります。「日ごろ

世界  
120位

## ジェンダーギャップ指数

世界経済フォーラムが昨年3月、国別に男女格差を数値化した「ジェンダーギャップ指数」を発表しました。この指数は「経済」「政治」「教育」「医療」の4つの分野のデータから作られ、0が完全不平等、1が完全平等を示します。今年の日本の総合スコアは0.656。順位は156か国中120位でした。特に政治分野では女性の議員数の割合が低く、経済分野では収入での男女格差、管理職や専門職・技術者の数について男女差があることが、全体の指数に影響しています。